

ともにいのちかがやく世界へ

# 大悲

元本願寺派総長  
題字 蓮 清 典 師

(第 65 号)  
令和 2 年. 1. 1  
(2020)

昌 平 寺  
昌平寺門信徒会

〒359-0036 所沢市旭町22-8 電話 (04) 2994-8887



箱根神社の親鸞聖人像

令和二年度(2020)

## 昌平寺行事御案内

- 一、修正会(元旦会) 1月1日(祝・水)  
開門 午前7時  
勤行(後、ご流盃の儀) 午前8時
- 二、春季彼岸会 3月20日(祝・金)  
昌平寺住職 遠山久敬  
勤行 午後2時  
講演 午後3時～4時  
駒澤大学名誉教授 田上大秀師
- 三、春まつり 4月12日(日)  
音楽礼拝、 午前11時～午前12時  
落語、プリマ、大抽せん会、お茶席 午前12時～午後3時
- 四、合同墓地追悼法要(第一墓苑) 5月10日(日)  
勤行・法話 午前11時～午前12時
- 五、門信徒総会 6月7日(日)  
勤行・法話 午後2時～午後3時  
総会 午後3時～4時
- 六、本堂預骨室盂蘭盆会 7月19日(日)  
高願寺住職・布教使 宮本義宣師
- 七、武蔵野墓苑盂蘭盆会 8月2日(日)
- 八、孟蘭盆会 8月15日(土)
- 九、秋季彼岸会 9月22日(祝・火)
- 十、開基住職小畑俊哲忌 11月2日(月)
- 十一、報恩講 12月6日(日)
- 十二、成道会の集い 12月7日(月)

# 新年の挨拶

## みえないものを拝む心



昌平寺住職 遠山久敬

を行ってきました。親子ですが、次の様な法話もしてきました。

仏壇は、『心の窓』ですよ。

家には窓がありますね。窓を開けると光が差し込み、風が入ってくる。光が当たると、暗闇では今まで見えなかった埃や危ないものや探していたものが見えてきます。また、光は温かい。更に新鮮な風が吹き抜け、気分を一掃してくれます。

お仏壇は心の窓。朝扉を開け、お灯り(光≡智慧)をつけ、お花を供え、香を焚いて、手を合わせてください。

そして、仏様の光(智慧)で私の心の危なさ、汚れ、素晴らしさを気づかせて頂き。お花(慈悲)から、仏のいつくしむ心、穏やかな心を頂き。お香から清楚さ、すがすがしさを頂いて一日をスタートしてください。『仏壇を、仏さまからの智慧と慈悲を受取る心の窓』にししてください。

門信徒の皆様 新年明けましておめでとうございます。昨年寺の行事、法要にご参加ご尽力戴き有難うございました。また本年も、友人知人、SNSで御誘い合わせお参りください。阿弥陀さま、坊守・僧侶一同お待ちしております。さて、昌平寺門信徒の皆さんのお宅には、お仏壇がございませよね！ところでその仏壇は、いつ頃、何歳ぐらいの時に求められたのですか？ または、お父様やおじい様、先祖からの継承されたものでしょうか？ 私事です私、昨年十月下旬、大津に住み始めた娘(まだ独身三十代半ば)の家に、仏壇を安置して、お入仏と猫の四十九日

と！

そんな事があり、親としてホッとして帰ってきてからのある日。TV(フジテレビのネプリーグと言うクイズ番組)を見ていましたら、「四十代の家に仏壇がある人は何%か？」と言う問題。回答者の長嶋一茂さんは、ぴったりの数値を答えていました。が、私は、彼の思考力・想像力に感心する以上にその実態に驚きました。今の時代、四十代の家庭の七十一%には仏壇がない。

四十代と言えば、家庭に幼児や小学生がいる年代です。このことは、親もそうですが、その子どもたちに、親が手を合わせることを見せていないということとです。(おじいちゃん、おばあちゃん居てくださったたら少し違うと思いますが)

以下各年代の仏壇所有率(安置率)です。

- 四〇代 二九%
- 五十代 三九%
- 六十代 四九%
- 七十代 六二%

昌平寺の門信徒の皆様のお宅では如何でしょうか？

四十年ほど前、花山勝友先生

〔海外開教師・前武蔵野女子大学(現武蔵野大学)教授〕に、「神棚や仏壇が各家庭から無くなり、目に見えないものに手を合わせること(こころ)が無くなると、日本は駄目になる。」「物やお金だけを拜んでいては、人は駄目になる。」また、宇智月温泉の善巧寺前住職雪山隆弘先生は、「お金様からお陰様へ」とおっしゃり、龍谷大学元学長の信楽峻磨先生には「恩とは、なされたことを知ること」(両親をほじめ、私を生かしている全ての働き、私に懸けられている願いに気づくこと)と伺っています。

これには、一日でも若い時から手を合わせる習慣をつけ、仏の智慧と慈悲により仏に出会い、自分に出会うことが大切で、拝む場所(神棚や仏壇)が必要で、仏壇の前で先ずは、「南無阿弥陀仏」「南無阿弥陀仏」「南無阿弥陀仏」と、称名・念仏いたしましょう。

そして、お寺の本堂で、親鸞聖人の教えを聞き(聴聞)「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」を目指しましょう。

# 盂蘭盆会法話

## 「お盆」に思うこと

### — 仏に あい 私に あう —

武蔵野大学名誉教授 山崎 龍 明



夏が暑いものとは誰もが知っています。この頃の暑さは異常で、まさに殺人的な猛暑です。毎年暑さがひどくなり、気候変動を甘くみてはならないように思います。地球が悲鳴をあげているようです。

私が若いころお盆参りをしている時も暑かったですが、当時は三十度を越したらもう大変な騒ぎでした。今は三十七度、三十八度もめずらしくなくなりました。

さて、お盆の法要は七月、あるいは八月にとめられますが昔は民族の大移動とも言われ

る通り、帰省客があふれていました。今は昔ほど帰省する人も多くなく、むしろ海外旅行へ行く人が多くなりました。時代の流れでしょうか。

お盆の行事はなんといつても「なき人」を縁としてつとめられることが多いのですが、しかし、それは、今ここにいのちをいただいている「私」じしんの「いのち」の問題、生き方にかかわるものであることはいまでもありません。

「お盆」についてはそれぞれのお宗旨によって違いがあります。十三日にご先祖をお迎えして、丁寧におつとめ（読経）し、十五日、あるいは十六日にお送りするといってお宗旨も多くなります。あるお宗旨によっては三日間、朝昼晩三食の御膳をお供

えしてご供養するところもあります。

私たち浄土真宗にあつては、そのような風習はありませんが、亡き方々の尊いえにしによつて今の私がある、という謝念からおつとめ（勤行）し、お寺に参つて仏法を聞くことを大切に致します。

私たち真宗者はこのように仏法、とりわけアミダ如来の教えを聴聞することを第一と致します。「法に聞き、法を問ひ、法に学ぶ」ところに人生が開かれると私たちは領解します。

私たちが生きていく現実はまだここにきびしいものがあります。まさに四苦八苦の言葉通りです。八苦とは次の「苦しみ」をいいます。

第一苦Ⅱ生まれるという苦しみ。第二苦Ⅱ老いることにともなう苦しみ。第三苦Ⅱ病むことの苦しみ。第四苦Ⅱ死に対する苦しみ。第五苦Ⅱ愛別離苦（愛しい人の別離）の苦しみ。第六苦Ⅱ怨憎会苦。いやな人とも逢

わなければならぬ苦しき。第七苦Ⅱ求不得苦。欲しいものを手にいれることができない苦しき。第八苦Ⅱ五蘊盛句。心身の乱れによる苦しき。

このようなるつぼの中を生きるのが私たち人間です。並大抵ではありません。仏法を聞き学んでも「苦」はなくなりません。「信心を賜り」「念仏」しても

「苦」はなくなりません。しかし、親鸞聖人は「苦」しみの中に「よろこび」の種があると申されます。「苦」しみを断つことはできませんが、「苦しみが」「軽くなり。薄くなり。少くなる」ハタラクがアミダ如来の法であると示されています（現世利益和讃の左がなⅡ左訓）。

それは親鸞聖人が九十年の生涯をかけて私たちに示し下さった「念仏の大道」でした。お盆に亡き方々を偲び、縁としてこの法にであつていきましよう。そこになき方々も現在して下さっています。

ナモアミダブツのお名号として。

# 秋季彼岸会法話

## 二重の愚かさ、二重の喜び

武蔵野大学学長 西本照真



「生死の苦海ほとりなし ひさしくしづめるわれらをば 弥陀弘誓のふねのみぞ のせてかならずわたしける」(高僧和讃)

いつから始まり、いつになったら尽きるのかもわからない、限らない苦しみの海に沈んでいるわたくしですが、沈んでいるという自覚症状がないままに沈み続けていくというのが、二重の意味で深刻です。サンスクリット語の「moha」(愚か、無明、モーハ)が転じて「バカ」になったという解釈もあるようですが、「沈んでいる」ということ「沈んでいることに気づいてい

ない」ということの二重の意味でわたしたちは「moha」であるといえましょう。

昨日、中国から帰りの飛行機の中で、「The プロフェッサ」の大学の大学教授リチャードが、学期初めの時期に、突然、医者から余命半年を宣告されます。人生の不条理を恨み「くそっ」という言葉を連発し、ハチャメチャな授業を行いながらも、学生たちに失敗を恐れずにチャレンジして生きることの大切さを熱く語ります。やがて、学期が終了し、リチャードは一年間のサバティカル(研究休暇)を取得。最後は妻と娘を残して愛犬と旅にかけ、月夜の晩に一台の車がはるか彼方へ走りゆく場面で映画は終わります。

病気が進行中でも、自覚症状

がないと医者にはかかりません。病気であることに気づけば、治療の方法もありますが、「気づかない」ということは深刻な事態を招くことにもなりかねません。逆に「気づく」ということは、苦しみに向き合うということになります。向き合う中で人生の深い意味に出会うチャンスにもなります。ナチスのユダヤ人迫害と虐殺の中を生き抜いた精神科医フランクは、「苦悩に充ちているということは人間にとつては充ち足りていないということではない。反対に人間は苦悩の中に成熟し、苦悩において成長する」(『死と愛』)と述べています。

また、宮城あきら先生も、「救いというのは、問題が全部解決してしまうことではない。問題が解決するということだと、死ぬまで解決はない。生きていく間、何かかかえている。救いというものは、どんな問題でも担える力を賜るといふこと。その問題を担って歩むことができる

なら、その歩みというものが深い人生というものを開いてくれる」と述べておられます。

阿弥陀さまの願いは、わたしたちに二重の愚かさ、気づけよと呼びかけてくださったと思います。苦しみが避けられないという事は、人生の不条理ではなく、条理である。その条理に気づき、向き合う中に、生きてよし死してよしの世界が開けてくる。ああ、「moha」に気づかせるお働きは、同時に無明を超えて彼岸へと渡してくださるお働きでもあったのか、苦しみの世界でありつつ大いなる二人称に抱かれての人生でよかつたと、今度は二重のお働きに対する喜びへとつながりゆくのでありましよう。そして、お念仏を喜びつつ、「世界の幸せをカタチにする」願いのもとに日暮しができればステキだと思います。



# 新年ごあいさつ

昌平寺門信徒会会長 縄田 脩



あけましてお目出度うございます。会員の皆様には夫々明るく希望に満ちた新年をお迎えになられましたことを心からお喜び申し上げます。

振り返りますと昨年は大型台風が次々と日本を襲い、堤防の決壊・土砂崩等で、全国で九十三人の方が亡くなり、多くの人が田畑を失い家を失われました。被災者の方々の一日も早い再起を願っております。

昨年は元号が平成から令和に変わりました。

令和天皇はご即位のご挨拶で、平成天皇の御意思を継承し、象徴としての責務を果たすと誓われました。令和の御代が人災は

勿論、天災も少ない御代になつて欲しいと祈るばかりです。

昨年、昌平寺門信徒会総会で会員数が九百八十五名と報告いたしました。残念ながら十一月二日現在では九百六十七名となりました。そんな中、川村千恵子氏が役員に加わってくださいました。会員の方のご声援を宜しくお願い致します。

昌平寺では、門信徒とご縁を深めるために、交流の場を寺の行事に合わせて開いています。修正会（一月一日）は勤行（八時）に続いて「流杯の儀」が行われ、お屠蘇が振る舞われ僧侶と門信徒の賀詞交換の場が開かれます。毎月十五日には親鸞聖人命日の速夜法要（十六時）が行われ、続いて太田先生指導の仏教讃歌を歌う会（十七時）、続いて懇親会（十八時）を和室で行っています。十二月七日成

道会前夜祭は、住職の楽しい企画で行われ、終わると住職を囲んだ懇親会が開かれます。

門信徒会では、初夏に数キロの散策「ゆつくりウォーキングの会」を実施しています。昨年は東村山北山菖蒲園を散策し武蔵野うどんに舌鼓を打ちました。秋には親鸞聖人のご旧跡を求めてバス旅行を行います。昨年は日帰りで箱根の御旧跡を巡りました。十二月には「忘年のつどい」を別館で毎年行っています。

この外、一、七、八、十二月を除く月の第三火曜日十三時から定例法話会が行われます。講師はお寺の方又外部からお招きして約四十分法話を聴き、十四時からは、講師も交え、茶話会を開いています。法話会のない月は、書写（写経）の会を十三時から開いています。

お寺は門徒の方々の声を伺いながら集まりやすい会を目指しています。是非、今年はお寺に、足をお運びください。

新しいご縁を作りましょう。

## 責任役員・総代辞令交付

十一月二日、本山からの昌平寺責任役員・門徒総代の辞令が遠山住職から交付されました。

就任のご挨拶を久万責任役員・総代から戴きました。

「この度、本山より責任役員、門徒総代を拝命いたしました。今後、四年間昌平寺様の益々のご発展に役員一同力を合せ努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

責任役員 久万 利祐



写真は左から土田末男、関原茂、坊守、久万利祐、榎原豊彦、浅上勝敏、小山鶴子、矢形征治氏の諸氏です。坊守を除く七名の方は門徒総代（十二名内）です。責任役員（六名内、住職を含む）は坊守と兼務で久万、榎原氏、監事（二名内）兼務で関原氏。計八名にこの度辞令を交付されました。（縄田）

# 研修旅行に寄せて

## 箱根バス旅行

大村 純司



NHKラジオより台風十九号接近の放送があった十月十日朝でしたが、晴天に恵まれました。午前七時半集合、第一本堂前にて三十七名全員で記念撮影をした後、八時に出発しました。今回も国際興業(株)の三浦さんにお世話になりました。

西武大型バスのクルーはドライバー斎藤さん・ガイド新井さん。今回初めて門信徒会相談役の根神泰淳師が参加されました。縄田会長のご挨拶に続き、住職



より「楽しい旅になるようお互いにコミュニケーションをとりましょう」とのご挨拶がありました。車中ではお菓子とビール・お酒が配られ、語り食べ飲み役員の皆様ありがとうございました。

箱根旧街道は、江戸から京都を結ぶ約五百キロの東海道のなかで小田原宿から三島宿まで約三十二キロ、「箱根八里」とい

われ、標高八百メートルの山越えの難所でありました。

親鸞聖人は、一步一步念仏を唱えながらの旅であったと偲ばれます。

最初に甘酒茶屋に到着しま



した。

江戸の面影を残すお店があり、ここより百メートル下ったところに聖人ゆかりの場所、弟子性信坊に「親鸞に代つて東国の同朋に念仏を伝道せよ」と背負っていた笈(仏具などを入れる箱)を形見として渡したという「笈

の平」があります。

この伝承を偲び別れを惜しみ



つつ腰かけたとされる「別れの石」と『病む子をば預けて帰る旅の空心はここに残すこそすれ』という歌碑が残されています。箱根神社は、古くは「箱根権現」と尊崇され、中世には関東



の鎮守として崇敬をあつめた名社です。宝物殿には、権現信仰の証たる多くの歴史資料が収集され、境内には親鸞像が建てられています。明治時代の神仏分離令で箱根神社となりました。



聖人は、笈の平で性信坊と別れ箱根権現にさしかかった際、箱根権現の示現を受けられた神官によって温かく迎えられて三日三晩ご逗留されました。このことは「本願寺聖人の伝絵」に描かれています。帰洛にあたり、現身としてご自身の像と十字名号を残されていかれました。真宗大谷派箱根山萬福寺住職・小笠原聡様よりたくさんの資料と丁寧なご説明をいただきました。慶長五（千六百）年創設され明治維新に箱根神社と改称された折、権現境内にあった金剛王院

東福寺は廃寺となり伽藍は打ち壊されましたが、金剛王院に安置されていた親鸞聖人自刻の御真影並びに御真筆の十字名号は、萬福寺に移されて難を逃れました。

昼食は、芦ノ湖畔の旅物語館で富士山を仰ぎながらおいしく



いただきました。

小田原の鈴廣「かまぼこの里」

では、皆さんたくさんのお土産を買われました。足柄上郡松田町に向かい、営業時間を過ぎていながら待っていて下さった中沢酒造で松美西の甘口辛口のお酒を味わいました。遠山住職が四十数年前に築地本願寺で結婚式を挙げられた際、披露宴会場に松美西の樽酒が用意され参加者皆さまが美酒に酔われたとのこと。どうしても蔵元をお訪ねしたいという思いが今回叶い、蔵人と心ゆくまで語り感謝の気持ちをお伝えられたとのことでした。

午後六時三十分、全員何事もなく無事にお寺に到着しました。心まで酔わせて頂き、人生とは摩訶不思議な世界ですが、浄土真宗に出合い昌平寺でご縁をいただきました。ただただ感謝のみでございます。

楽しい旅をありがとうございました。

# 甘酒茶屋

香月 榮 爾



甘酒茶屋は旧東海道の箱根宿と畑宿の中間に位置し、江戸時代初期の創業と言われている。当時は四軒開業していたが、現在そのうちの二軒が残る。



この建物は十一年前に茅葺き屋根に葺き替えられ、店の中は薄暗く、目が慣れてやっとお土産が目に入る。名物の甘酒は一杯四百円、黒ごまきなこ餅は五百円である。その他のお土産品は、梅干し、飴クッキー、甘酒のもと（濃縮甘酒）、ふきの



とうの醤油漬、味六菜（漬物）等が所狭しと並んでいる。席の空くのを待つて、同朋の仲間と甘酒を注文したが、とても熱くて「ふうふう」と冷ましながら火傷に気を付けて飲み干し、並んで待つている人達と交替した。茶屋を出て県道を少し下ったところには「箱根旧街道資料館」がありその先は峠（小さな石畳の広場）となっている。旧東海道の石畳は歩きにくいし、紅葉の落葉が石畳の間に落ちて足許

を隠すので、滑りやすく不安定である。

このあたりは、古くは「大平」と呼ばれていたが、箱根権現に向かう親鸞一行が、ひととき休憩しここに背負っていた筈をおろしたというので筈平の名がつけられた。筈というのは今でいう書箱のようなもので、親鸞聖人と性信房のつらい別れを偲び、以来土地の人は「筈の平」と呼び換えたらしい。性信房は、付き添ってきた親鸞聖人と止む無







くこの地で別れることになり、  
 下総国横曾根（今日の茨城県常  
 総市）に戻ったと言ひ伝えられ  
 ている。その際、性信房に譲ら  
 れた親鸞聖人常用の笈は、現在、  
 坂東報恩寺（東京上野）に所蔵  
 されている。

関東での二十年の教化を終え  
 京に向かう親鸞聖人は「帰洛後  
 どんな妨げがあるかも知れぬ、  
 私に代わって関東に留まり門徒  
 衆を教化してくれないか」と腰  
 かけるに丁度よい石に腰かけて、  
 関東布教を託したと言う。これ



が親鸞聖人御旧跡「性信御坊決  
 別の地」の石碑であり、聖人の  
 関東決別の辞というべき歌が、  
 石碑の右上に歌碑として建てら  
 れている。

「病む子をば預けて帰る旅の空  
 心はここに残りこそすれ」

また、歌碑は二基立っている  
 が昭和二年に建てられた碑では、  
 旅の空は旅の宿とも、病む子は  
 病める子とも読める。旅の宿と  
 は関東、病む子とはその民衆で  
 ある。



閑話休題  
 甘酒はアルコールを含まない  
 一種の甘い酒で、粳コメまたは糯米  
 の飯に麴を交え発酵させたもの。  
 一夜のうちに熱するので一夜酒  
 とも呼ばれる。俳句では夏の季  
 語である。

○腰かけし牀しよど几こ斜めであま酒屋  
 星野 立子

箱根三句

香月えいじ

○親鸞の眼居まなこい厳し初紅葉

○ふうふうと熱き甘酒秋灯下

○秋風や箱根旧道石畳

# 精進料理を いただく会

## 川村 千恵子

令和元年十一月二日土曜日に昌平寺本堂にて行われた開基住職小畑俊哲忌法要の後、精進料理・フレンチバージョンをいただく会がお寺の和室で開催されました。

お招きしたシェフは、箱根宮ノ下養食山常泉寺の副住職を務める傍らオーベルジュ「グリーンヒルズ草庵」のフレンチシェフでもある折橋大貴師です。



当日のお料理は、旬の野菜を使い、季節感たっぷりなフレン

チの要素を取り入れたものでした。しかも精進料理ですから当然肉や魚は入っていませんし、香りの強い野菜である大蒜・萵・玉葱・長葱・らっきょう（昔の中国の仏教では避けられていた臭いの強い物）も使用してないそうです。それでは、シェフに伺った範囲のお料理の内容を紹介させていただきます。

○ 新生姜の炊き込みご飯

具は新生姜と人参、トッピングに蕪の葉の塩漬けをちらしたものです。

○ すり流し蓮根

お汁仕立てになっており、おろし金で一本ずつすりおろしたものです。

○ 舞茸と三つ葉のペンネ

洋風のペンネに旬の舞茸を合せ、三つ葉で香りをつけたものです。

○ 季節の野菜の揚げ浸し

具材は里芋・蕪・茄子・しし唐・なめこ、お出し汁は



○ 洋梨のデザート

洋梨を薄くスライスしてゼリー風に仕上げミントの葉を載せたもの

一品ごとの量も程よく、日本酒やビールをお伴にご参加の皆さま全員、美味しく完食させて頂きました。

今回、お料理を載せた器もシェフご自身がご持参された物で応量器（五枚を重ねると一セットになる物）を模して造られたようですが、私は初めて見ましたので、なかなか感慨深いものでした。

また昌平寺で会食が開催され

干し椎茸で取り、特に里芋はご住職の御要望で所沢産の物を使用し、皮ごと揚げたもの



が出来たそうです。その時の素敵な出会いがあったからこそ、私達が昌平寺で美味しい秋の

精進料理を楽しむ事ができました。

本堂にご馳走さまでした。そしてまた機会がございましたら、精進料理・イタリアンバージョンなど企画して頂けたら嬉しいです。

た経緯を伺ってみました。

三年前に東京で行われた「一般社団法人・お寺の未来」が主催する『未来の住職塾』第五期の勉強会に参加された折に、遠山住職とのご縁があつて「いつか所沢の昌平寺で精進料理の会食会を開きたい」という住職のお話から今回それを実現する事が出来た

# つれづれ

## 阿弥陀様の前で

十月初旬の吉日、遠山住職の代になって初めての仏前結婚式が、昌平寺第一本堂にて執り行われました。

莊嚴まえの二十四席が、ご参



列の皆様方を待つうちに行事鐘が鳴り響きます。

門信徒総代・矢形征治さんのオルガンがBGMとして流れる中、ご親族始めご一同様の着席後に新郎新婦が入場。司婚者

(遠山住職)により、表白・讃仏偈の唱和。続いて誓いの言葉・念珠の交換・新郎新婦、ご両家代表の方によるご焼香と続いた後に、誓盃(新郎新婦)・式盃(参列の皆様)が行われました。



可愛らしい雄蝶雌蝶の登場です。緊張で固くなっていた幼気なお子達は、新郎新婦のやさし



い笑顔に見守られて気持ちも穏やかに大役を終了。

堂内の雰囲気も一気に和みます。司婚者からのお祝いの言葉に続いて讃歌(恩徳讃)の合唱後、御住職が退場されました。

新郎新婦・参列者ご一同様の退場の際は、オルガンBGMも新郎新婦の感謝の想いが満ち溢れるような曲に変わり、幸せのお裾分けを受け取られた御参列者の明るい笑顔のうちに一時間に



及んだ式は終了いたしました。その後皆さま方は再び本堂に戻られて、お莊嚴前で新郎新婦を囲んでの記念撮影を楽しんでおられました。おめでとうございます。末永くお幸せに。南無阿弥陀仏

### 書写(写経)の会

法話会のない月の第3火曜日  
1月、7月、8月、12月  
午後1時~3時

講師 香月瓔石(栄爾)  
テキスト 「正信偈」「重誓偈」  
「讃仏偈」「御文章」

会場は和室(椅子席)です。  
筆ペンを使用します。

### 定例法話会・茶話会

毎月第3火曜日  
法話会 午後1時~2時  
第二本堂  
茶話会 午後2時~3時  
和室(椅子席)

(講師は昌平寺僧侶、他各師)  
注) 1月、7月、8月、12月は休会



令和元年十一月二十六日

深見けん二選

応募して三富地区さんとみの落葉搔

浅上 勝敏

郭公の鳴く信号機街小春

浅上 寿子

大いなる冬木となりし朴仰ぐ

新井 雪江

暮れなづむ紅葉明かりの露天風呂

池田新八郎

踏めば鳴る落葉の音をたのしみて

大村 敬子

落葉道日の当りたる轍かな

緒方 初子

箱根越え偲ぶ御正忌親鸞像

香月えいじ

何気なき子のやさしさよ秋深む

木谷 英子

宝物の溢るる上野小六月

木下 尊子

急坂の上の札所の小春かな

久保田よしみ

朝な掃く箒の音も冬に入る

小泉 洋一

手をつなぎ父と小春の門司港

芝 高子

小春日や海上バスにて隅田川

須賀 敏子

本堂に煙のおよぶ落葉焚

鈴木すぐる

遠くにも落葉搔く音雨上り

鈴木 征子

今日も又小春日和を授かりし

高橋 敏子

人肌のシャツを取り込む小春かな

永井 潮

秋の薔薇一輪挿して真紅

永岡美砂子

襟元へ水存分に菊人形

縄田をさむ

枯れてゆくものに日射のさんさんと

福田 敏子

信濃路の旅の足湯に落葉かな

馬越やす子

\* \* \*

窓に影引いて落葉の降り止まず

深見けん二

昌平寺俳句会御案内  
 毎月第四火曜日  
 締切 十時  
 場所 本館和室  
 句数 七句  
 どなたでもご参加いただけます。

# まずお寺へ

皆様方は、御家庭の御仏壇に朝に夕にお手を合わせていらっしやいますね。

本堂は家庭の仏壇の延長線にあるものです。俱に心のよりどころとしてお気軽にお参りください。昌平寺は皆様のお寺です。お葬儀の相談、お墓、仏塔の購入、お遺骨の一時預かり、ご法要の相談、ご仏壇の購入、ご本尊入仏慶讃法要等々仏事の事なら何なりと迷わずにご相談ください。また、昌平寺では、年一度皆様方にお送りしております年間行事表、大悲の冒頭にも掲載してありますように年間を通して十回の仏行事があります。ご家族お揃いでお参りください。本願寺でも有名な先生方をお招きしての御講演、定例法話会もありますので、ご聴聞ください。更に門信徒会による茶話会、書写の会、春まつりのお茶席、年一回の昌平寺門信徒会の親睦をはかる研修旅行等の行事もあ

ります。

ご参加ください。お待ちしております。

最近、テレビ、新聞、週刊誌等で話題になっております葬儀において、納得のいかなる請求が多々発生し、トラブルとなることしばしば見受けられるようです。

葬儀業者の当初の見積り金額、ネット等で調べた金額と大幅に請求金額が違うこともあると聞いております。

やり直しのきかない葬儀ですから各自が細かい部分まで十分に確認され納得されたうえご契約いただければと存じます。

お葬儀の契約についての苦情の増加は、葬祭業の営業に許認可制がなく新規参入がしやすいという背景があるほか、突然訪れる身内の不幸に動転して、業者のペースで契約してしまうことが多いようです。

こうしたことから、ご葬儀は出来るだけご本人が生前中にご家族と話し合いの上、お葬儀の予算、ご参加者予定人数・お知らせ

せする方々の住所、氏名、ご家庭の宗派、遺影のお写真、斎場等についてご家族と相談してあらかじめきめておくことご安心いただけるかと存じます。

お葬儀については、まず昌平寺にご相談ください。信頼できる葬祭業者をご紹介させていただきます。

昌平寺では葬祭齋場二ヶ所、法事本堂二ヶ所を備え、ロビー、駐車場も整備してご来寺のお客様にご不便のないよう努めております。

預骨室のご利用、墓地については、墓苑をお持ちでない方に、当寺では仏塔（永代供養付き合同墓所）、また残りは少なくありませんが、墓地のご用意もありますし、その間のお預かりも出来ますのでご利用ください。

なお、昌平寺では、従来どおり門信徒の方々にご寄進をお願いすることは一切ございませんのでご安心ください。

合掌

## 編集後記

明けまして おめでとうございませう。皆様のご健康と平安を祈念申し上げます。

昨秋は「即位礼正殿の儀」を始め、皇室行事が厳かに執り行われ、「令和」を迎えたことを殊更に感じました。

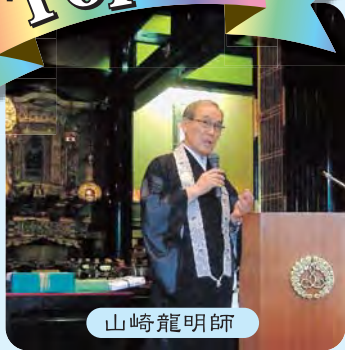
台風、豪雨で大きな災害が各地で繰り返され心が痛みます。抗えない自然の脅威を思い知らされるばかりです。

人の世は常ならず、すべて移りゆくことを思う時改めて信じ続けられる心の拠り所を持つて生きてゆく事の大切さを、ひしひしと感じています。仏様に手を合わせ、感謝し、無力の自分をしっかりとみつめ、一日一日を丁寧に過ごしたいと願っています。

本年も宜しくお願い致します。

智子

# Topics



山崎龍明師



本堂盂蘭盆会



秋季彼岸会・西本照真師



フレンチ精進料理



大田文子氏献歌



善正寺住職  
竹本 靈師



俊  
哲  
忌



責任役員・門徒総代



責任役員・小畑坊守